

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

横浜市かながわ保育園

横浜市神奈川区東神奈川 1-12 リーデンスフォート横浜 3F

運営主体：社会福祉法人 神奈川労働福祉協会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ページ
分類別評価結果	6～15 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	16～24 ページ
利用者本人調査分析	25～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2009年8月31日 公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	横浜市かながわ保育園（保育所）	
報告書作成日	2009年8月31日	評価に要した期間 約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年4月11日～6月30日</p>	<p>09年4月、職員会議で評価機関から第三者評価の説明を受け、乳児部会・幼児部会で再度趣旨を説明した。</p> <p>各職員が個人で、自己評価票を記入した。</p> <p>各個人が記入したものを、常勤職員は5グループに分かれて、それぞれ1項目ずつ確認し合い、まとめた。また、給食・短時間・土休日専任職員は、それぞれのグループで、同様に行った。最後に、全体を園長・主任でまとめた。</p> <p>まとめた自己評価票を、会議等を通じて、全職員に説明した。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年6月2日～6月14日</p>	<p>全園児の保護者（92家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2009年7月9日 第2日 2009年7月15日 第3日 2009年7月19日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：書類調査。園長・主任に面接調査。その後、長時間保育・延長保育の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に、個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・主任に面接調査。</p> <p>面接調査中に随時、保育観察も行った。</p> <p>最後に、理事長も含めて意見交換を行い、終了。</p> <p>[第3日]（午後3時から約1時間）</p> <p>休日保育の保育観察および園長と意見交換。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2009年7月9日 第2日 2009年7月15日 第3日 2009年7月19日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

横浜市かながわ保育園は、JR「東神奈川」駅と京浜急行「仲木戸」駅間の19階建てマンションの3階にあります。年齢ごとの保育室のほか、食堂・一時保育室・多目的室などがあって余裕のあるつくりで、同じ階に園庭があります。また、近隣には多くの公園があり、子どもたちの遊び場となっています。

2002年4月に横浜市によって開設され、運営は社会福祉法人神奈川労働福祉協会が行っています。2006年4月からは指定管理者として引き続き同法人が運営している公設民営の園です。

定員は100名（0～5歳児・産休明け保育あり）で、平日の開園時間は7時～21時（0・1歳児は20時まで）、土曜日は7時～19時です。また、休日保育も2006年11月から行っています。

当園の保育基本理念は、“子どもたちの「今、ここに生きる」を大切にし、一人ひとりが「かけがえのない存在」と感じて、自信を持って生きていく力を育てます”と定めています。それにもとづき「子どもたちをまんなかにして、保育者と保護者が共に力をあわせて、次のような子ども像を目指します」として、下記のように4つの目標を掲げています。

1. 自分の思いを素直に出せる子
2. 体を思いきり使い、のびのび遊べる子
3. 友だちが好きで、どの子も大切にできる子
4. 自分で考え、行動できる子

高く評価できる点

1. 子どもたちは、「自分の気持ち」を大切にされて、のびのびと元気に過ごしています

園では、0・1歳児は、大人との信頼関係を築くことを大事にし、子どもたち一人ひとり個別に主担当の保育者を決めています。子どもは、しっかりと受け止められることで安心して過ごし、保育士もできるだけスキンシップを多くして、それに応えています。2歳児になると、着替えやトイレの時の着脱など、身の回りのことを自分でできるように、保育士は、一人でやってみることを、上手に勧めています。

幼児期になると、身の回りのほとんどのことを自分でできるようになります。生活の場面は、主にグループ活動で行い、給食当番などで、子どもたちは集団の中での過ごし方や自分の役割を学んでいます。

日々の活動の中で、保育士は、子ども一人ひとりのペースや気持ちを大切にしています。例えば、朝、登園すると、子どもたちは園庭に出て遊んでいます。朝の集まりのために保育室に入る時間になっても、まだ遊びに夢中の子どももいます。保育士は、声をかけますが、せかせることはありません。友達がいなくなったのに気づいて、遊んでいた子どもも遊びをやめて、保育室に入ります。「自分の気持ち」と、集団の中での行動をどのように調整したら良いか、自然に習得しています。また、保育室では、好きな遊びをしたり、本を読んだりする時間が十分ありますが、片付けの時間になっても、おもちゃや本を出しっぱなしの子どももいます。「これは誰のでしょう？」と保育士は声をかけ、子どもたちが自分で考え、行動できるようにしています。

どの場面でも、保育士は大きな声で命令したり、叱ったりすることはなく、子どもたちは、「自分の気持ち」を受け止めてもらい、のびのびと元気に過ごしています。

2、職員の志気が高く、意欲を持って子どもたちに接しています

全職員が、クラスに関係なく、一人ひとりの子どもの状況や配慮すべきことなどを把握し、子どもたちと向き合っています。この背景には、朝のミーティングや昼の各クラス打ち合わせはもちろんのこと、職員会議・リーダー会議・乳児部会・幼児部会・ケース会議など、あらゆる機会をとらえて子どもや家庭の状況などの情報を共有していることや、「報告・連絡・相談・確認」という基本事項を全職員が励行していることが挙げられます。

また、法人4園の園長会議・園の幹部会議などで話し合われたことや、さまざまな情報が全職員に伝えられるとともに、すべての会議で、職員は自分の考えていること・提案などを自由に言える雰囲気があります。

さらに、月1回は「保健休暇」(男性職員にも)があり、心身をリフレッシュできるようにしています。また、日々、休憩時間を必ず取ることができ、月1回は有給休暇が取れるように勤務スケジュールが組まれていることや、産休や育児休業も取りやすいなど、働きやすい職場となっています。

風通しが良く、働きやすい職場であることが、職員一人ひとりの志気を高め、意欲を持って子どもたちに接する姿勢につながっていて、“担任でない先生でも、皆で子どもを見てくれる”“何でも相談できる”などの声が、家族アンケートに多く寄せられていることにも表れています。

3、園と保護者との密接な関係が築かれています

子どもに関する情報交換の場として、送迎時を大切に、長時間保育・延長保育の時間帯にも常勤職員が必ずいるようにしています。さらに、0~5歳児の全クラスで個人別の連絡帳を使い、きめ細かい情報交換を行っています。また、クラス懇談会は、年4回行っています。個人面談は、年1回のほか、保育参観などの際にも希望に応じて行っています。また、0歳児クラスは全員に家庭訪問を行い、その他のクラスでは必要に応じて行っています。

また、保護者会が結成されていて、ふれあいまつり(運動会)・フェスティバル・おもちつき大会等の大きな行事を、園と保護者会で実行委員会を組織し、共同で取り組んでいます。さらに、保護者会独自の活動として、パパと遊ぼう会、スマイルハッピーの会(クラスを超えてお母さんたちが情報交換や話し合いをする会)、卒園アルバム作成などがあります。その際は、園は保育室などが使えるように便宜をはかり、その間の保育の受け入れもしています。「子どもたちをまんなかにして、保育者と保護者が力をあわせて」という園の方針のもと、園と保護者・保護者会とは、常に良好なコミュニケーションがとられています。

4、地域の子育て支援に力を入れています

地域の子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・育児相談などを行っています。特に園庭開放(週1回)では、専任の保育士を2名配置し、遊びを援助し、絵本の読み聞かせや、さまざまなプログラムを用意しています。絵本の貸し出しも行い、子どもが自分で選んだ絵本を家に持ち帰り、親から読んでもらって親子のきずなを深めてもらいたいとの園の願いが表れています。また、月1回身長・体重測定をし、夏はプール開放を行い、冬は屋外が寒いので一時保育室や食堂を開放するなど、地域に住む親子が楽しんで来園できるように工夫しています。園庭開放では人数制限をしていないので、プール開放で希望者が多くても断ることなく、日数を増やしたり、二組に分けて時間を調整するなど工夫して対応しています。

また、園庭開放に来る親子に昼食を提供できないか、多数の参加者が来る地区には、こちらから出向いての“出前保育”ができないかなど、「地域の子育て支援拠点として、困っている人が頼れる園」を目指して前向きに取り組んでいます。

独自に取り組んでいる点

休日保育を行っています

「働く女性たちと子どもたちの為に最善を尽くす」という法人の理念のもと、2005年（平成17年）11月から休日保育（日・祝日・年末年始）を行っています。休日保育の開園時間は8時～18時です。登録児童数は約200名ですが、10名前後が現在の一日の利用平均です。認可保育園としては、神奈川区でただ一つの休日保育実施園であり、他区や県外（保護者の職場が横浜市内）の子どももいます。

休日専任の保育士・調理員を配置しているほか、幹部職員が管理責任者として必ず出勤しています。さらに、その日の利用者の年齢・人数に応じて、平日担当の保育士や、姉妹園の小鳩保育園の保育士が応援に入るなど、一人ひとりの子どもに目が行き届くように配慮しています。

より一層の改善や工夫が望まれる点

マニュアル・書類の整備

「苦情解決」「子どもの健康管理」「感染症への対応」「衛生管理」「安全管理」「実習生・ボランティア受け入れ」などのマニュアルが作成されているほか、必要に応じて「伝達事項」として、全職員が守るべきことなどを掲示により周知しています。しかし、これらのマニュアル・伝達事項などがまとまってファイリングはされておらず、相互の関係が分かりにくかったり、必要な事項の有無が見えにくかったりします。マニュアルは、具体的な業務の作業手順が記述されていること以外に、まず、「何のためにこれを行うのか・行っているのか」を全職員が共有していることが重要です。このような観点から、内容を見直し、より充実したマニュアルなどにするとともに、全職員に周知するための方法や定期的な見直しをどのようにするかなどの検討が望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育基本理念は“子どもたちの「今、ここに生きる」を大切にし、一人ひとりが「かけがえのない存在」と感じて、自信を持って生きていく力を育てます”とし、利用者本人を尊重したものとなっています。
- ・個人情報の取り扱いや職員の守秘義務は、保護者に対し、入園時や新年度に説明し、承諾を得ています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・目指す子ども像として、「自分の思いを素直に出せる子」「体を思いきり使い、のびのび遊べる子」「友だちが好きで、どの子ども大切にできる子」「自分で考え、行動できる子」の4つを掲げています。これにもとづき、職員は、子どもたちの「自分の気持ち」を大切に保育にあたっています。
- ・各クラスの年間指導計画中に「食育」を取り上げ、子どもの発達状況に応じて、調理、配膳、片づけに子どもたちが参加するようにしています。
- ・「働く女性たちと子どもたちのために最善を尽くす」という法人理念のもと、休日保育を行っています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案、日案を作成しています。毎月、クラスごとにカリキュラム会議を開き、子どもの発達や状況に応じて、指導計画の評価・見直しを行っています。
- ・障がい児保育について、職員会議・乳児部会議・幼児部会議などで話し合っているほか、東部地域療育センターの巡回指導があるときに、ケースワーカーに講師になってもらい、ミニ学習会を開いています。
- ・保護者・保護者会との密接な関係が築かれています。ふれあいまつり（運動会）フェスティバル、おもちつき大会等の大きな行事は、園と保護者会で実行委員会を組織し、共同で取り組んでいます。
- ・全職員が守るべきことを、各種マニュアルや、必要に応じて「伝達事項」として職員に周知しています。しかし、これらがまとまってファイリングされておらず、相互の関係が分かりにくかったり、必要事項の有無が見えにくかったりします。内容を見直し、より充実したマニュアルなどにするとともに、全職員に周知するための方法や定期的な見直しをどのようにするかなどの検討が望まれます。

4、地域との交流・連携

- ・一時保育・交流保育・園庭開放などを実施しています。園庭開放は週1回で、参加人数は20～40組と多く、地域に定着しています。専任の保育士2名を配置するなど、園は力を入れています。
- ・育児相談は、毎週水曜日を設定し、まず電話で受けて、わざわざ来園する必要がないようにしています。相談日以外でも、園庭開放のときなどに気軽に相談にのっています。
- ・ボランティアや実習生の受け入れを、例年積極的に行っています。卒園児で小学校4年生までの子どもたちが、夏休み中に「小さい先生」として来園し、在園児とともに過ごしています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・職員倫理綱領・職員行動指針に、守るべき法・規範・倫理などを明文化し、職員会議や法人内の研修などで職員に周知しています。
- ・法人として中長期計画を定めていて、それに基づく園の中長期計画を、10項目の基本視点としてまとめています。
- ・さまざまな情報が職員間で共有され、何でも言える自由な雰囲気と、有給休暇や産休・育休などを取りやすい職場環境なども、職員の志気を高めています。

6、職員の資質向上の促進

- ・職員の資質向上に力を入れ、法人研修・園内研修や外部研修へ職員が参加しています。
- ・職員会議・乳児部会・幼児部会・カリキュラム会議など、あらゆる機会を捉えて、保育技術上の課題などを話し合い、見直しています。
- ・全国保育団体合同研究集会やその他の研究大会などで、研究発表・実践報告などをする機会があり、職員の励みになっています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育基本理念として、“子どもたちの「今、ここに生きる」を大切に、一人ひとりが「かけがえのない存在」と感じて、自信を持って生きていく力を育てる”と定めていて、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・「子どもたちをまんなかにして、保育者と保護者が共に力をあわせて、次のような子ども像を目指す」として4つの目標を掲げています。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の思いを素直に出せる子 2. 体を思いきり使い、のびのび遊べる子 3. 友だちが好きで、どの子も大切にできる子 4. 自分で考え、行動できる子 ・保育課程を入園説明会やクラス懇談会などで説明するほか、年度初めには年間指導計画書を保護者に配付しています。 ・年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案、日案を作成しています。 ・指導計画は子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるように配慮して作成しています。また、子どもたちの意見・要望を聞いて、週案、日案を変更するなど、柔軟に対応しています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同伴で入園説明会に来てもらい、保護者に面接するとともに、子どもの様子を把握しています。園長や保育士だけでなく看護師、栄養士も参加しています。 ・0、1歳児に対しては、個別に主担当保育者を決めています。 ・0～5歳児全クラスで個人別の連絡帳を使用し、家庭との連絡を丁寧に行っています。 ・進級に際しては、3月末1週間くらいから、子どもたちは新しい保育室で過ごし、早く環境に慣れるようにしています。また、4月初めの2週間は、職員は有給休暇などをできるだけ取らないようにして、子どもたちが不安を感じないように配慮しています。 ・毎月、クラスごとにカリキュラム会議を開き、子どもの発達や状況に応じて、指導計画の評価・見直しを行っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 乳児の保育室は1日に2回、幼児の保育室やトイレ・階段・園庭等は1日1回、清掃を行っていて、清潔に保っています。また、どの保育室も陽光が十分に入り、明るい室内となっています。
- ・ 各保育室に温湿度計を置き、職員がこまめにチェック表をつけ、エアコン・加湿器・扇風機などにより適切な温度・湿度を保つようにしています。また、保育室・食堂などは、床暖房となっていて、冬期でも子どもたちは裸足で過ごしています。
- ・ 幼児トイレと園庭に温水シャワー設備があります。排泄や遊びで汚れたときや、汗をかいたときなどに温水シャワーを使い、身体を清潔にできるようにしています。
- ・ 3～5歳児は、保育室とは別の食堂で食事を摂っています。2歳児は隣室の一時保育室を寝る場所として利用しています。0、1歳児室は部屋の一角を寝る場所と決めて、食べる場所と遊ぶ場所などは分けています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0～1歳児には、個人別に月間指導計画を作成しています。幼児では、特に配慮を要する子どもなどについて、個別月間指導計画を作成しています。
- ・ 指導計画の重要部分は、保護者との個人面談などの際に伝え、生活面など家庭との連携が取れるようにしています。
- ・ 子どもや家庭の個別の状況・要望・入園後の子どもの成長発達記録などは、児童票・面談記録に個人別に記載しています。
- ・ 子どもや家庭に関する個人記録は鍵の掛かる書架に保管し、園長の許可を得て、全職員が見ることができます。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・ 毎月ケース会議を行い、職員間での子どもへの対応が一致するようにしています。また、特に配慮を要する子どもなどに関しては、各クラスの月間指導計画のまとめ欄に、各職員が気づいたことを記入するようにしています。
- ・ 特に配慮を要する子どもの保育について、外部研修などに参加した職員が、職員会議などで報告し、職員間で情報を共有できるようにしています。
- ・ 園入口から玄関までは、エレベーターもあり、園内は段差の無い造りで、障がい者用トイレを設置するなど、バリアフリーに配慮しています。
- ・ 障がい児保育について、職員会議・乳児部会議・幼児部会議などで、話し合っているほか、東部地域療育センターの巡回指導のときに、ケースワーカーに講師となってもらい、ミニ学習会を開いています。
- ・ さまざまな会議で、アレルギー疾患についての情報や知識を全職員に伝えています。
- ・ 代替食を提供する場合には、できるだけ他の子どもたちの食事と見た目が変わらないように工夫しています。また、代替食・除去食は専用のトレイを使用し、必ず職員が子どものそばに付くなど、間違いが起こらないようにしています。
- ・ 文化や生活習慣の違いを認め、保護者からの要望を尊重しています。
- ・ 日本語による意思疎通が困難な保護者には、「お便り」などの解読が難しいときには、直接手渡ししながら口頭でゆっくりと話したり、絵カードを使ったりして丁寧に伝えています。


- 6 苦情解決体制








- ・ 苦情解決規程を定め、その概要をフローチャート形式で園内に掲示し、要望・苦情の受付担当者は主任であること、および第三者委員（2名）の名前を、保護者に伝えていきます。
- ・ 意見箱を事務室前に設置しているほか、クラス懇談会や行事後のアンケートなどでも、要望等を聞いています。
- ・ 保護者からの要望や苦情があったときは、すぐに園長に報告し対応する仕組みがあり、その解決策は職員会議などを通じて職員に周知されています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階にふさわしい環境構成が各クラスで見られます。例えば、0歳児クラスでは大きなマットを四角く置いたり坂にしたりして、つかまり立ちや、はいはいでの登り降りができるように工夫しています。1歳児クラスでは、大きな木の小屋が保育室の端においてあり、保育士といっしょにままごとをするコーナーにもなり、隠れ場所や一人で絵本を読む場所ともなっています。 ・ 遊びの中で、子どもたちの自由な発想が集団活動に発展します。例えば、4歳児クラスでトンネルを出したところ、「変身トンネルだ」と一人の子どもが言い出し、トンネルの中で変身する集団遊びになりました。 ・ 自由な時間に子どもたちは友だちといっしょに歌いながら、あやとりをしたり、一人で踊ったり、絵を描いたり、様々な素材を使ったりして、自分たちの気持ちを自由に表現しています。 ・ 子ども同士のけんかについては、乳児クラスでは保育士が双方の気持ちをよく受け止めて、二人の言い分や気持ちを代弁し、分かり合えるように働きかけています。その際、他の子どもたちが驚かないように、普段の声のトーンで話しかけるように配慮しています。幼児クラスでは、子ども同士で解決できない場合、保育士が道筋をつけて、どうしたら良いかを子ども自身で考えさせるようにしています。 ・ 異年齢交流として、2クラス合同で散歩に行く交流散歩、毎月の誕生会の時に幼児が縦割りグループになり食事をする交流食事会、5歳児が4歳児をもてなすお茶会、2～5歳児でそれぞれの役割を持つお店屋さんごっこなど、様々な活動が行われています。また、朝夕は異年齢の子どもたちがいっしょに遊んでいます。大きい子どもが小さい子どもの手を引いてクラスに連れて行ってあげたりするような光景が日常的に見られます。 ・ 各年齢の子どもたちが、発達に応じた遊びをしながら運動能力を高められるように、園内研修などで話し合い、全年齢を見通して系統的に年間指導計画に組み込んでいます。 ・ 屋外活動も積極的に取り入れています。子どもたちが日常的に行っている公園は10ヶ所以上あり、毎日2回、朝夕に散歩に行くクラスも多く、0歳児の時から体を鍛えています。家族アンケートの「子どもが戸外遊

	<p>びを十分しているか」の項目は、100%の満足度が得られています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩のコースがいくつか決まっているので、道中、顔なじみの家が多くあります。子どもたちは、大人と親しく言葉を交わしたり、飼い犬や猫に声をかけたりさわらせてもらったり、わざわざ玄関前に置いてくれている魚などを見たりしています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を残さず食べることを強要したり、偏食を直そうと叱ったりすることはありませんが、嫌いなものも少しずつ食べられるように、保育士は励ましています。 ・乳児では、保育士が同じものをおいしそうに食べてみせたり、給食職員に、子どもの目の前で、例えば果物の皮をむいてもらったりして、「食べてみようかな」という気持ちを引き出したりしています。 ・幼児は、食堂で一緒に食事をしています。お代わりを自分でよそうように、配膳台にお代わり用の容器が置いてあります。子どもたちは配膳されたものをまず全部食べ切ってから、お代わりをすることになっています。嫌いなものがある時は、3歳児クラスでは保育士に減らしてもらい、4,5歳児クラスでは子どもが自分で減らし、それを食べ切ってから、好きなもののお代わりをします。このようにして、嫌いなものも食べよう、という気持ちを育てています。 ・各クラスの年間指導計画に「食育」の項目があり、子どもたちの発達状況にしたがって、調理、配膳、片づけに参加するように計画しています。2歳児クラスから自分の食器を片づけ、野菜の皮むきなどをするクッキング保育が始まります。5歳児クラスでは当番の子どもが盛り付けも配膳もし、クッキングでは収穫したじゃがいもでカレーを作ったり、レストランごっこで使うクッキーを作ったりもします。 ・給食は旬のものを多く取り入れた季節感のあるもので、一つのお皿に主菜と副菜を彩りよく組み合わせたりして、食欲をそそるように工夫をしています。 ・食器は大小の2種のセットを子どもに合わせて使用していますが、乳児ではスプーンですくいやすい形状のものを特に用意し、スプーンも長さや形状が子どもに適したものを選んでいきます。スプーンから箸に移行する時期には、長さ太さ形状を考えた、扱いやすい特別の竹箸を用意しています。 ・献立は月に2回同じものを繰り返すので、1回目に食べにくかったものなどは保育士からの意見も参考にして、2回目には切り方や味付けを変えて提供しています。給食日誌によると、残食はほとんど「少」か「無」です。 ・給食職員は、子どもたちのクッキング保育に参加して、子どもたちとの交流を大切にしています。例えば、3歳児クラスは子どもたちが野菜の型抜きをして、給食職員が協力して、具たくさんスープを作ったり、4歳児クラスは茹でてもらった材料を子どもたちが包丁で切り、給食職員の協力で焼きそばを作ったりしています。 ・「給食だより」「園だより」で季節のレシピを紹介しています。0歳児クラスの遠足時、全クラスの保育参観時には、保護者に試食をしてもらっています。また、保護者に給食に関するアンケートをとるなどして、家



	<p>庭との連携を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡の前には、各クラスとも子どもたちを集めて、静かに手遊びや読み聞かせなどを行っています。そしてカーテンを閉め、安心して心地よい眠りにつけるようにしています。また、乳児クラスは布団の場所を通年固定して、落ち着いて入眠できるようにしています。 ・トイレトレーニングは保護者と相談しながら、子どもに合ったおまるやトレーニングパンツを使用し、個別に対応しています。概ね1時間、尿をためられる頃を見計らって、日中は布パンツあるいは紙パンツにしてみました。 ・おもらしをした子どもに対しては、ごく普通のこととして、保育士はさっと片づけて対処しています。他の子どもたちも、互いに優しく、「出ちゃったんだね」と自然に受け止めています。また、おもらしの頻度の高い子どもに対しては、午睡の終わる少し前に起こして、トイレに連れて行くようにしています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康マニュアルがあり、それに基づいて子どもたちの健康状態を把握しています。乳児は毎朝健康チェック表を保護者に記入してもらっています。幼児もプールに入る時期には毎朝健康チェック表を保護者に記入してもらっています。 ・年に2回健康診断・歯科健診があり、保護者には健康カードで健康診断・歯科健診・身体測定などの結果を伝えています。食後の歯磨き指導は、0歳児クラスで歯が生えてきた頃から始めています。 ・保育中に感染症が発症した場合は、速やかに保護者に連絡し、すぐに迎えに来られない時には事務室で預かるなど、柔軟に対応しています。他の保護者に対しては、その日のうちに園内の数か所に感染症発症のお知らせを貼り出し、情報提供しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルがあり、日々の保育に必要な部分については全職員に伝え、下痢嘔吐の始末の仕方などは職員で学習して、キットも準備しています。しかし、職員参加で定期的にマニュアルを見直しして共有するまでには至っていません。園としては、今後、クラスにマニュアルを備え、年度初めに会議で見直し、全職員で確認する方向を考えています。 ・清掃はマニュアルに基づいて行われ、日々清掃点検表で確認し、清潔さが保たれています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルは、事故防止や事故対応、不審者侵入や災害時等に対応していて、全職員に周知しています。 ・子どものけがについては、事故対応マニュアルに従い、軽傷であっても必ず担任から保護者に報告し、アクシデント・レポートに記録します。また、状況によっては園長・看護師と相談して保護者に連絡し、病院に連れて行くなどの対応を行っています。事故やけがについては、その日のうちに会議で話し合っています。また、ヒヤリハットレポートも取り上げて、再発防止策を検討しています。 ・不審者の情報は市、区、小学校などから連絡が入るようになってきました。また、マンション管理人との連携があり、近隣の「子ども110番の家」に

	<p>も挨拶に行き協力体制を作っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの侵入防止策としては、出入口2ヶ所に防犯カメラが設置しており、階段に続く玄関の鍵は二重施錠にしています。また、警察と警備保障会社につながる非常通報ボタンシステムがあり、緊急連絡体制も確立されています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の子どもへの対応は概ね丁寧で、優しくわかりやすい言葉で話しています。子どもの気持ちや発言を受け入れる場面も多く観察されました。 友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所が各クラスにあります。ロッカーで仕切られたコーナーの隅、室内の小屋の中、段ボール、大きな柱の陰などが子どもたちのお気に入りの場所となっています。 個人情報の取り扱いや守秘義務について、保護者に対しては入園時や新年度に説明して承諾を得ています。また、園内や「園だより」などに写真や誕生表を掲示する際の取り扱いは、園と保護者会で取り決めをしています。 虐待が明白になった場合や疑われるような場合は、区役所、中央児童相談所、東部地域療育センターと連携体制があります。 職員会議、パート会議などで、性差による固定観念で話された言葉の例などを取り上げて話し合い、共通認識をもつように配慮しています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 保育方針を玄関に掲示し、「園のしおり」にも明記しています。また各クラスで年間指導計画を保護者に配付し、保育方針が具体的に理解されるように努力しています。今回の家族アンケートでは、95%の保護者が「保育方針を知っている」と答え、その全員が保育方針に賛同しています。また、「日ごろの保育や子どもの姿から、保育方針が実践されていることがわかる」という意見が数多く寄せられています。 子どもに関する保護者との情報交換として、子どもの送迎時を大切に、長時間・延長保育の時間帯にも必ず常勤職員がいるようにしています。また、クラス懇談会を年4回、個別面談を全クラスで年1回行うほか、保育参観の際にも個別面談を行っています。家庭訪問は0歳児クラスでは全員に、その他のクラスでは必要に応じて実施しています。 保護者からの相談は通常担任が受けますが、常に、素早い対応を心がけています。園長、主任からの助言・協力を受けられる体制にもなっています。 毎月「園だより」「クラスだより」「給食だより」「保健だより」を発行しています。また全クラスで個人別の連絡帳を使って保護者に子どもの様子を伝えるとともに、幼児クラスでは日々そのクラス全体の活動や様子を知らせる「集団日誌」を掲示しています。懇談会でもビデオを上映して日常の保育の様子を伝えています。懇談会に出席できなかった保護者に対しても配付資料を渡し、担任がお迎えの時間まで残って、一人ひとりの保護者に直接内容を伝えています。家族アンケートでは、園からの情報提供について100%に近い満足度が得られています。 保護者会の自主的な活動は、総会、役員会、パパと遊ぼう会、スマイルハッピーの会(クラスを超えてお母さんたちが情報交換や話し合いをする会)、卒園児のアルバム作成などがあります。その際は、園は保育室




などが使えるように便宜をはかり、その間の保育の受け入れもしています。「子どもたちをまんやかにして保育者と保護者が共に力をあわせて」という園の方針のもと、保護者会とは常にコミュニケーションをとっています。

- ・保護者と園とで実行委員会を組織して開催する行事として、ふれあいまつり（運動会）、フェスティバル、おもちつき大会があります。各クラス、保護者会、職員から委員が出て、一丸となって計画・準備・実行します。終了後に全保護者対象にアンケートをとり、総括し、次につなげています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ニーズは、ふれあいまつり（運動会）・フェスティバル・園庭開放などに来た人たちから聞いたり、主任が、神奈川区子育て支援連絡会へ参加したりして、把握しています。 ・園庭開放、交流保育、一時保育を実施しています。園庭開放は、週1回実施し、参加人数は20～40組と非常に多く、地域に定着しています。2名の専任保育士を配置し、遊びの援助、絵本の読み聞かせ、身長・体重測定などさまざまなプログラムを用意して力を入れて取り組んでいます。夏のプール開放は、希望者が多くても断ることなく、日数を増やしたり、A・B二組に分けて調整したりして対応しています。 ・年2回の育児講座を行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園独自の月刊広報誌「ふぉんチャンス」を発行し、育児相談案内、園庭開放の予定・園行事紹介のほか、“簡単離乳食”“子どももつくれるごはん”などのクッキング情報等も載せて、地域に情報発信しています。 ・育児相談は、毎週水曜日を相談日に設定し、まず電話で相談に乗り、必要があれば来園してもらっていて、初めからわざわざ来園する必要のないようにしています。また、相談日以外でも、園庭開放の時や、電話でも随時応じています。“気軽に相談できる”ことから利用者が多く、相談内容は、子供の遊び・生活など多方面にわたっています。 ・神奈川区子育て支援連絡会に参加しています。 ・相談内容に応じて、神奈川区福祉保健センター、東部地域療育センター、中央児童相談所などと連携ができる体制となっています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいまつり（運動会）、フェスティバル、おもつき大会など園の行事に、地域の親子・お年寄りなどを招待し、交流の機会を設けています。 ・区の子育て連絡会のメンバーとして、毎年、区民祭や各地域のイベントに職員が参加し、保育園紹介、情報提供などを行っています。 ・4、5歳児が園外プールへ遠足で行ったり、近隣の図書館へ行って本を読んだりしているほか、公会堂などで開催されるイベントや展示物を子どもたちが見に行くなど、地域の文化・レクリエーション施設を利用しています。 ・散歩などのとき、子どもたちは、顔なじみの近所の人たちと言葉を交わしたりしています。 ・5歳児が、地域の小学校へ見学に行ったり交流会に参加したりしているほか、近隣のデイサービス施設を訪問し、歌や折り紙などでお年寄りと交流するなど、子どもたちが地域との関わりを持つ機会を設けています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報は、パンフレット、入園のしおり、月刊広報誌「ふぉんシャンズ」などによって提供していて、園の概要、保育理念・保育姿勢、給食・健康管理、保育園の一日、一時保育案内などを掲載しています。 ・園の情報は、横浜市こども青少年局ホームページ「はびねすぽっと」に園の保育方針、行事、料金概要などが掲載されています。また、地域子育て支援拠点「かなーちえ」のホームページ内の“神奈川区地域子育て情報カレンダー”に、園の行事案内も掲載されています。 ・見学希望があったときは、日時などを希望者の都合に合わせて常時、対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れを、例年積極的に行っています。受け入れにあたっては、マニュアル、オリエンテーションレジメを用意し、受け入れ担当職員が、園の方針、子どもたちへ配慮する事項などを事前説明しています。また、保護者・職員に受け入れの基本的考え方などを説明しています。 ・ボランティアとして、中学生・高校生が体験学習の一環として、多数来園しています。生徒からは、感想文がお礼の手紙を添えて届けられています。 ・「小さい先生」は、卒園児で小学4年生までの子どもたちが、ボランティアとして来園して、在園児と関わり、卒園児も在園児もともに充実した時間を過ごしてもらおうとするもので、小学校の夏休み中に行っています。 ・実習生のプログラムは、大学・短大・専門学校などから示される方針や、実習生の希望に沿って行っています。シフト勤務も行い、朝の受け入れから延長保育まで体験できるように工夫しているほか、担当職員は、実習生に記録の書き方などを指導したり話し合う時間を作っています。 ・最終日には、担当職員と主任または園長を交えて、実習生と反省会の時間をとっています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手・中堅・ベテラン職員と、さまざまな年齢層の職員をバランスよく配置して、園運営に必要な人材構成とし、必要に応じて人材の補充を行っています。 ・ 法人の研修として、法人基礎研修・新卒者研修・新採用者研修・中堅研修・幹部（主任および主任候補者）研修などがあり、職員・非常勤職員とも必要な職員が受講しています。また、法人合同研修として外部講師を招いて、全職員に対する研修も行っています。法人の研修は、理事長およびスーパーバイザー（当園の前園長と、姉妹園の矢向保育園の前園長）が中心となって、研修内容やテーマなどを決めています。 ・ 園内研修は、職員の話し合いで年間のテーマを決めて行っています。例えば、2008年度は5歳児クラスの実践を基に「子どもの見方の共通認識を作る」をテーマとしました。 ・ 市・区の研修や、全国保育団体合同研究集会などの外部研修会・大会などへ職員が参加しています。 ・ 法人として、今年度から0・3・5歳児担当者研修を開始するなど、研修内容を常に見直しています。 ・ 非常勤職員の資質向上についても、短時間勤務職員会議を月1回、休日保育担当者会議を年数回開き、業務上の問題点や子どもの見方などについて、園長などと話し合うことで、取り組んでいます。 ・ 職員一人ひとりの資質向上に向けた目標設定と、その達成度の評価については、園長が必要と判断した一部の職員のみ行っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議・乳児部会・幼児部会・カリキュラム会議など、あらゆる機会を捉えて、保育技術上での課題などを話し合い、見直しています。 ・ 外部研修等で得た他施設の事例を参考に、より良いサービスとなるよう職員会議などで話し合っています。また、他の保育園から実習として保育士が来園することもあり、お互いの話し合いの中で、他園の良いところを学ぶ機会があります。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成計画の中に、新人・中堅・主任などの役割が明文化されています。 ・ 現場の職員にできるだけ権限を委譲しています。また、クラスリーダーをできるだけ多くの保育士が経験するように配慮し、クラス全体・園全体を考える視点を持てるようにしています。 ・ すべての会議で、職員は自分の考えていること・提案などを自由に言える雰囲気があり、理事長や園長にも話しやすいことが、職員ヒアリングにより確認できました。 ・ 全国保育団体合同研究集会やその他の研究大会などで、研究発表・実践報告などをする機会があり、職員の励みになっています。 ・ 月1回、「保健休暇」（男性職員に対しても）があり、心身をリフレッシュできるように配慮しています。また、日々、休憩時間を必ず取ることができ、月1回は有給休暇が取れるように、勤務スケジュールが組まれています。さらに、産休や育児休業を取りやすいなど、働きやすい職場となっていることも、職員のモチベーションを維持する要因となっています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員倫理綱領・職員行動指針に、守るべき法・規範・倫理などを明文化し、職員会議や法人内の研修などで職員に周知しています。 ・ 経営・運営状況などは、理事会で承認を得た後、職員が閲覧できるよう事務室に掲示しています。また、指定管理者としての4半期ごとの事業報告書が神奈川区ホームページに掲載されています。 ・ 職員に対し、必ず「報告・連絡・相談・確認」をするように指導しています。 ・ こまめに不要な照明を消したり、エアコンの温度設定は市からの推奨温度にしたり、省エネルギーに努めています。また、緑の協会に入会し、園庭の緑化を推進しています。さらに、区の緑のカーテン運動に参加し、4歳児室前のベランダに、ゴーヤー・きゅうり・ひょうたんなどを植えています。 ・ 環境への考え方や取り組みなどを、明文化して、園運営に反映するまでには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「法人の基本理念」「保育基本理念」「園の目指す子ども像」を玄関に掲示するとともに、職員に配付しています。そして、年1回の園長と職員との個別面談時に、基本理念や保育基本理念を理解しているかどうかを確認しています。 ・ 園長は、重要な変更事項は、保護者や職員に十分に説明しています。 ・ 新保育所保育指針への対応等のため、いくつかのグループに分かれ討議してまとめるなど、必要に応じて職員全員で取り組む体制があります。 ・ 主任は、カリキュラム会議やクラス懇談会にできるだけ参加して、子どもや保護者への個々の職員の対応を把握しているほか、日々現場に出て職員の業務状況を把握し、個々の職員に対し、的確な指導や助言を行っています。 ・ 主任は、勤務スケジュールを作成するにあたって、個々の職員の事情などを配慮しています。また、職員の個人的な相談ごとなどにも丁寧に対応しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に影響のある情報は、理事長・園長・主任が外部の各種会議などに参加し、収集しています。 ・ 運営面での重要な課題は、幹部会議で話し合い、その結果を職員に周知し、園全体で取り組むようにしています。 ・ 法人としての中長期計画を定めていて、それに基づく園の中長期計画を、10項目の基本視点としてまとめています。 ・ 「安心と安全を提供できる園」を目指し、“地域の拠点として困っている人が頼れる園”とするにはどうしたら良いかなど、運営やサービスの新たなしくみを常に検討しています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2009年6月2日～6月14日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼した。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送してもらった。
- 3、回収率 84.8%（92枚配付、78枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...14人、1歳児クラス...15人、2歳児クラス...13人、3歳児クラス...17人、
4歳児クラス...12人、5歳児クラス...7人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

保育目標や保育方針を知っている保護者は95%で、そのうちの100%、即ち全員が、保育目標や保育方針に賛同しています。

自由意見欄には、「共感する」「実感できる」「目標が実践されている」などの意見が30件あります。

【問2】入園時の状況について

6つの設問「見学の受け入れ」「園からの情報提供」「園の目標や方針についての説明」「子どもの様子や生育歴などを聞く対応」「園での一日の過ごし方についての説明」「費用やきまりに関する説明」のすべてが90%以上の満足度です。特に「園の目標や方針についての説明」は99%の満足度です。

自由意見欄には、「説明がとても丁寧」「対応が親切で配慮がある」「話をよく聞いてくれた」「不安もしっかり受け止めてもらえて安心した」「信頼感を感じた」「突然の見学にも応じてくれた」など、園に対する信頼と安心感を伝える意見が27件あります。大半は乳児の保護者からの意見です。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」は97%、「保護者の要望が活かされているか」は94%の満足度です。

自由意見欄には、「年間計画は丁寧に作られていてわかりやすく、年間の見通しがもてる」「育児の目安にもなる」「仕事の調整ができる」「行事に参加しやすい工夫がされている」「保護者の要望を取り入れてくれて、園と保護者といっしょに子育てが出来る」「保護者会と園といっしょに行事を企画できるのが良い」というような、園の方針に満足している声が33件寄せられています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、6つの設問「クラスの活動や遊び」「戸外遊び」「おもちゃや教材」「園外活動」「遊びを通じての友だちや保育者との関わり」「遊びを通じての健康づくりの取り組み」の全てが97%以上の満足度です。「戸外遊び」については100%の満足度です。

自由意見で最も多いのは、「戸外遊びを十分にしてくれる」「家では出来ないような遊びも多く取り入れてくれ、様々な経験の中で子どもが良く育っている」というものです。全部で44件の感謝の声が寄せられています。一方、少数ですが、音楽活動が少ないという声が4件あります。

「生活」の項目では、「給食の献立内容」「子どもが給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立

に向けての取り組み」「昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか」「子どもの体調への気配り」の5項目については97%以上の満足度で、「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」が89%、「おむつはずし」が85%の満足度です。「おむつはずし」に関しては「その他」が13%になっています。

自由意見では、「給食」に関しては“メニューが良い”“とてもおいしい”“子どもが嫌いだったものも食べるようになった”という意見、「生活習慣への取り組み」や「体調への気配り」に関しては“個別に良く対応してくれる”“親が教えられる”という意見が多数あります。「ケガに関する説明」は“小さいケガでも丁寧に説明してくれる”“きちんと対応してくれる”という声が多くあります。“ケガをしたことがない”という声が5件、主に0歳児の保護者から出ています。また、おむつはずしに関しては、0歳児の保護者から“まだ始めていない”という声、3歳児の保護者から“入園時にすでに終わっていた”という声が合わせて10件あります。「生活」の項目で満足している声を合計すると43件が寄せられています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」「感染症に関する情報提供」の項目は97%の満足度、「子どもが落ち着いてすごせる雰囲気」は92%の満足度です。一方、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」に関しては20%の不満があります。

自由意見欄では、“不審者対策が不十分で不安だ”という声が多く、“多少不安だ”という声と合わせると19件あります。これは全年齢の子どもの保護者から出ています。不満に関しては“3・4歳児の保育室が、簡単な仕切りだけなので音が気になる”というものが3件、“園舎が狭い”というものが3件あります。どちらもほとんど3、4歳児の保護者からです。一方“感染症に関する情報提供がとても早い”という意見が5件あります。

【問6】園と保護者との連携・交流について

全ての設問に対して90%以上の満足度です。「園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」については最も高く99%の満足度、「子どもに関する重要な情報の連絡体制」「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」については97%、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「保護者からの相談事への対応」が96%、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」が95%、「送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換」が92%の満足度です。

自由意見欄には、職員の対応に関するものが多く出ています。“どの職員もよく話してくれて、保護者との連携がよくとれている”“何でも相談できる”“担任以外の先生もよく声をかけてくれる”“急に迎えが遅くなった場合も子どものことを第一に考えてくれる”などで、全部で41件の満足の声が寄せられています。不満の意見としては、“先生によって対応が違う(説明してくれない先生もいる)”というものが4件、“行事が土日なので出られず残念だ”というものが3件あります。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」「話しやすい雰囲気、態度であるか」「意見や要望への対応」については97%以上の満足度です。「アレルギーや障害のある子どもへの配慮」については86%の満足度ですが、不満はなく、「その他(分からない)」が10%です。

自由意見欄では、満足の意見が50件、不満の意見が4件、“わからない”というものが10件です。満足の声で最も多いのは、“担任でない先生も皆で子どもをみてる”“先生方が優しく、丁寧、熱心で根気強い”“保護者も大事にしてくれる”というものです。

【問 8】保育園を総合的に評価すると

97.4%の満足度です。

【問 9】園への要望など

全部で 50 件の意見が寄せられています。そのうち、園のありかたや職員の対応などに賛同する意見や感謝の言葉が述べられているものが 34 件で、その他は、不審者対策、保育内容、職員に関するもの、横浜市への要望等でした。

まとめ

95%の保護者が園の目標や方針を知っていて、全員が賛同しています。総合満足度は 97.4%と高く、ほとんどの保護者が満足しています。

自由意見欄には回答者の 80%、66 名から合計約 440 件の意見、主に賛同する意見が述べられています。園に対する非常に高い評価と関心を保護者から得ていると言えます。

設問 37 項目のほとんどに 90%以上の満足度が示され、その大半は 95%以上の高い満足度です。唯一不満が目立ったのは、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」で、20%の不満が出ています。

自由意見欄で特徴的なのは、多くの保護者が保育園と職員に強い信頼感を表し、

“ 保育園の目標や方針が日々の保育で実践されている ” と実感していること

“ 保育園と保護者の連携がよく取れていて共に育児をしている ” と実感していることがあげられます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

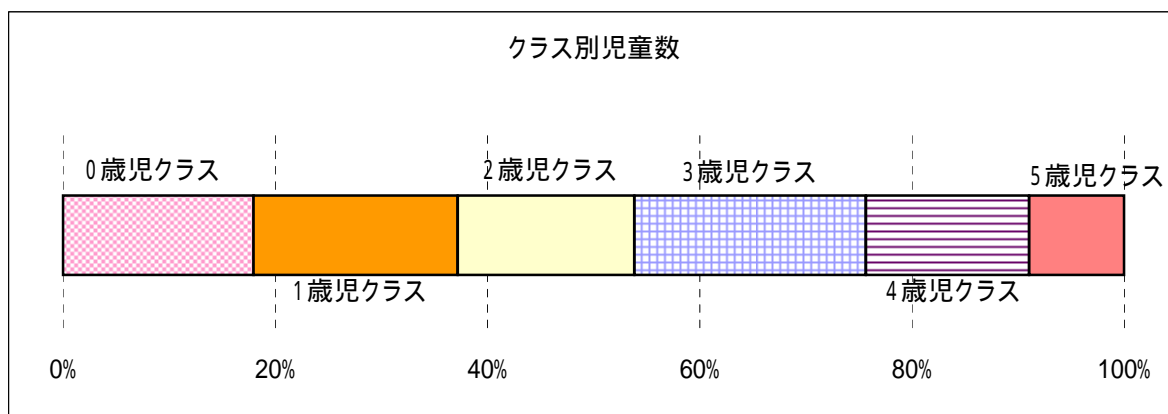
実施期間： 2009年 6月2日～6月14日

回収率： 84.8%（回収78枚／配布92枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
78	14	15	13	17	12	7	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



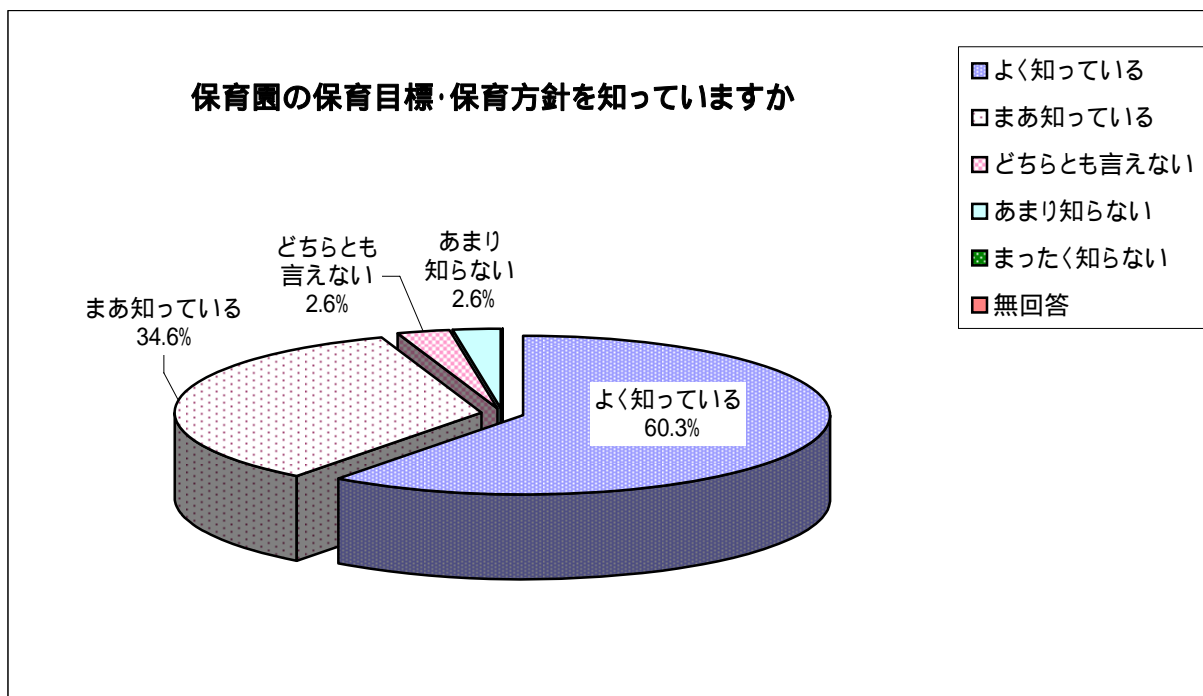
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	60.3	34.6	2.6	2.6	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

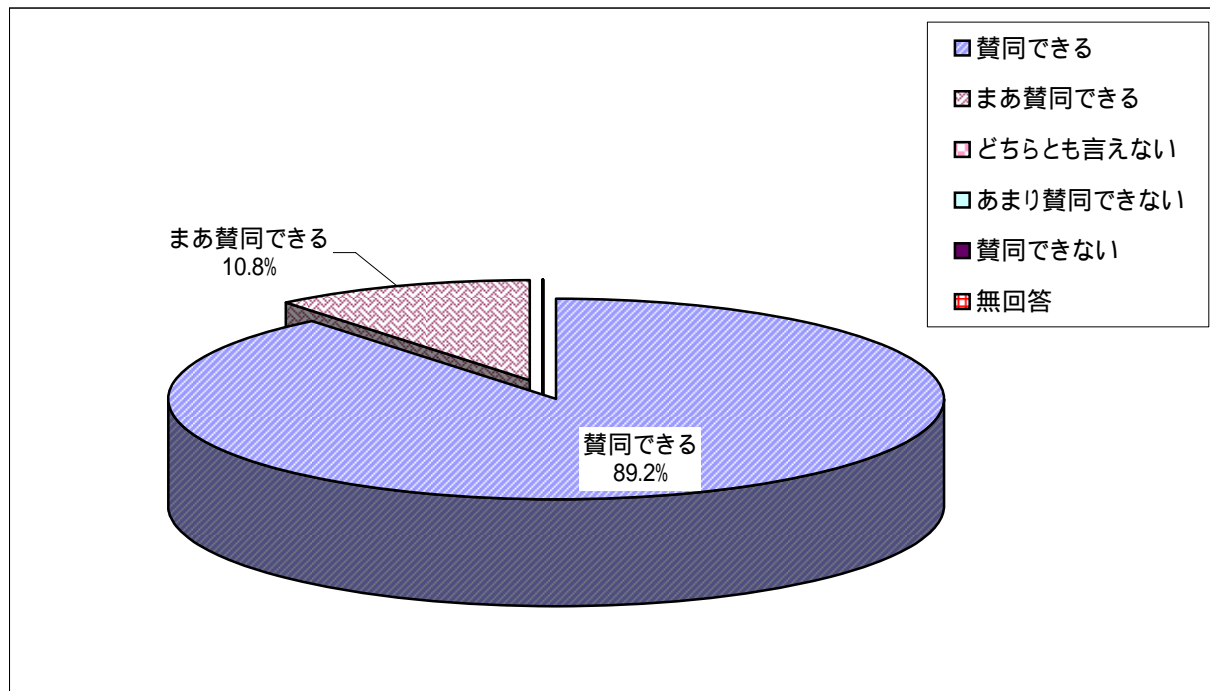


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	89.2	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

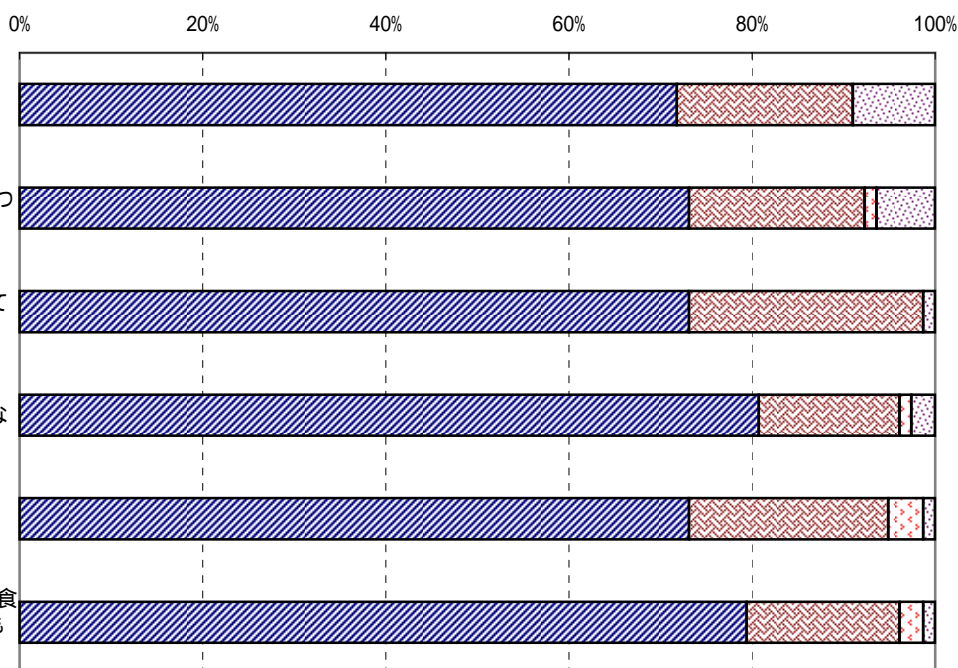
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	71.8	19.2	0.0	0.0	9.0	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	73.1	19.2	1.3	0.0	6.4	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	73.1	25.6	0.0	0.0	1.3	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	80.8	15.4	1.3	0.0	2.6	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	73.1	21.8	3.8	0.0	1.3	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	79.5	16.7	2.6	0.0	1.3	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



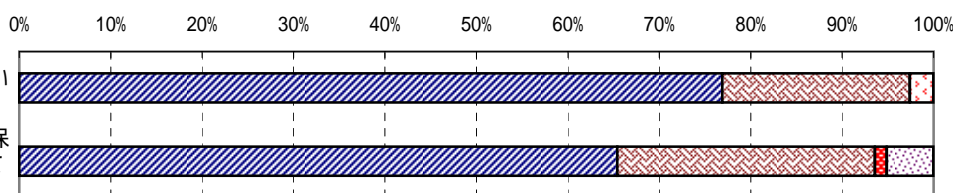
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	76.9	20.5	2.6	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	65.4	28.2	0.0	1.3	5.1	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

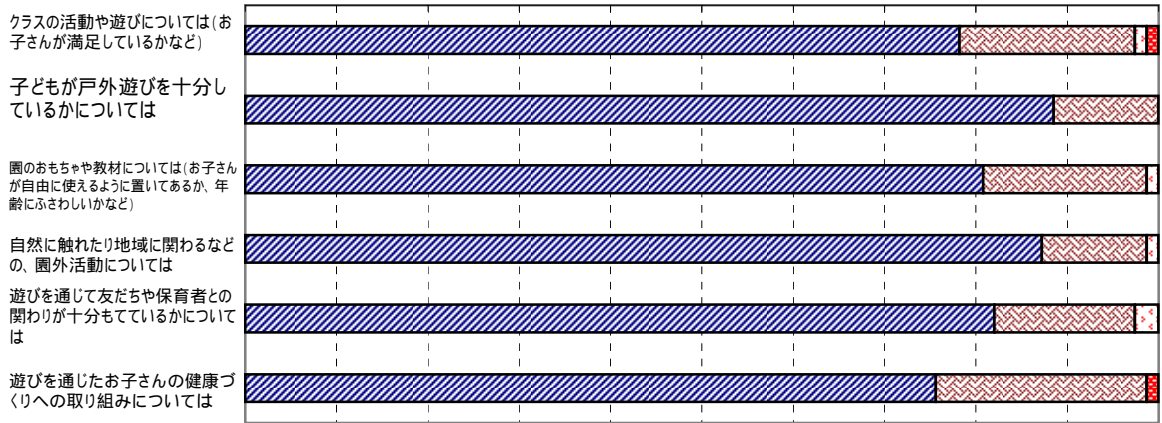
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	78.2	19.2	1.3	1.3	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	88.5	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	80.8	17.9	1.3	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	87.2	11.5	1.3	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	82.1	15.4	2.6	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	75.6	23.1	0.0	1.3	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



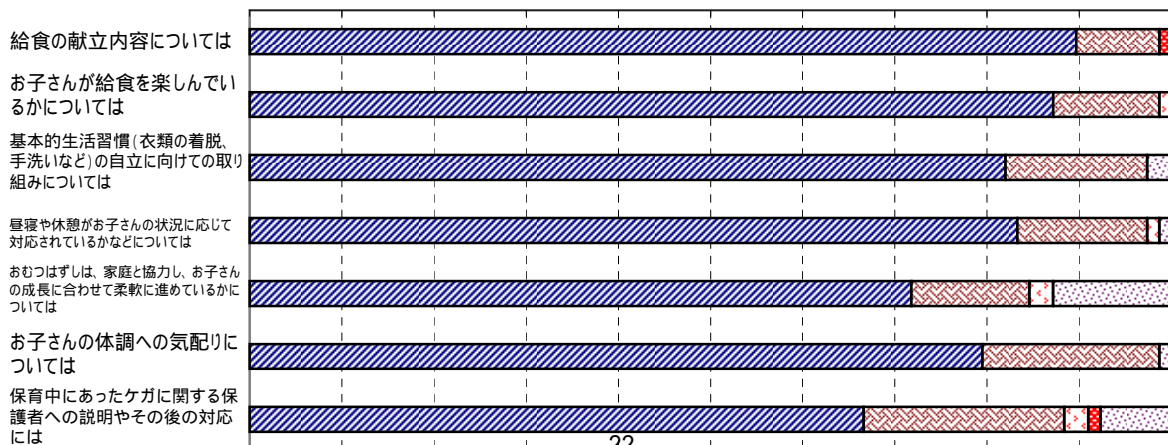
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	89.7	9.0	0.0	1.3	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	87.2	11.5	1.3	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	82.1	15.4	0.0	0.0	2.6	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	83.3	14.1	1.3	0.0	1.3	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	71.8	12.8	2.6	0.0	12.8	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	79.5	19.2	0.0	0.0	1.3	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	66.7	21.8	2.6	1.3	7.7	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



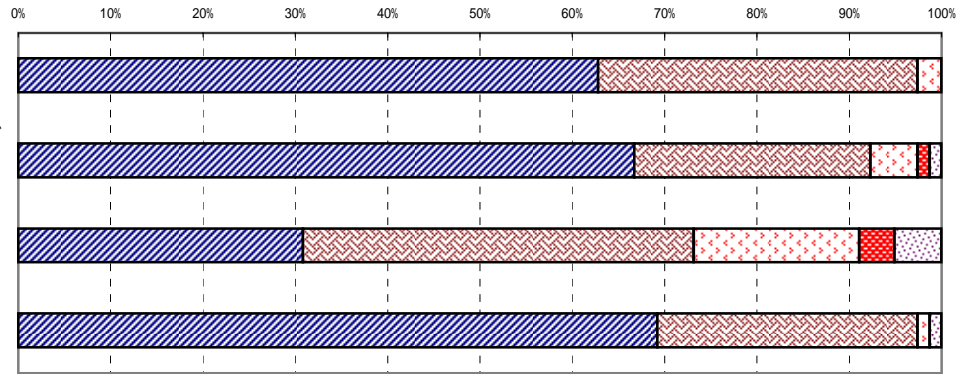
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	62.8	34.6	2.6	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	66.7	25.6	5.1	1.3	1.3	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	30.8	42.3	17.9	3.8	5.1	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	69.2	28.2	1.3	0.0	1.3	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



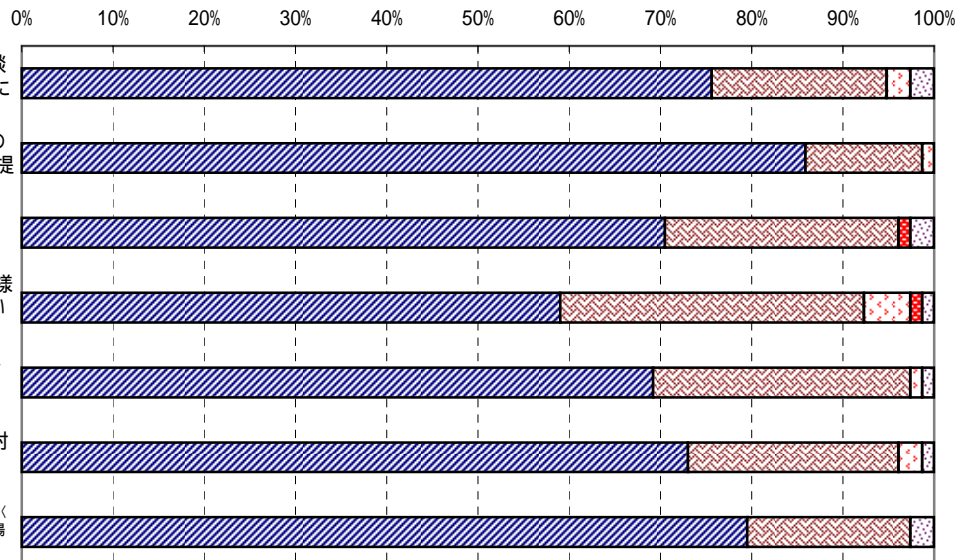
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	75.6	19.2	2.6	0.0	2.6	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	85.9	12.8	1.3	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	70.5	25.6	0.0	1.3	2.6	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	59.0	33.3	5.1	1.3	1.3	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	69.2	28.2	1.3	0.0	1.3	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	73.1	23.1	2.6	0.0	1.3	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	79.5	17.9	0.0	0.0	2.6	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

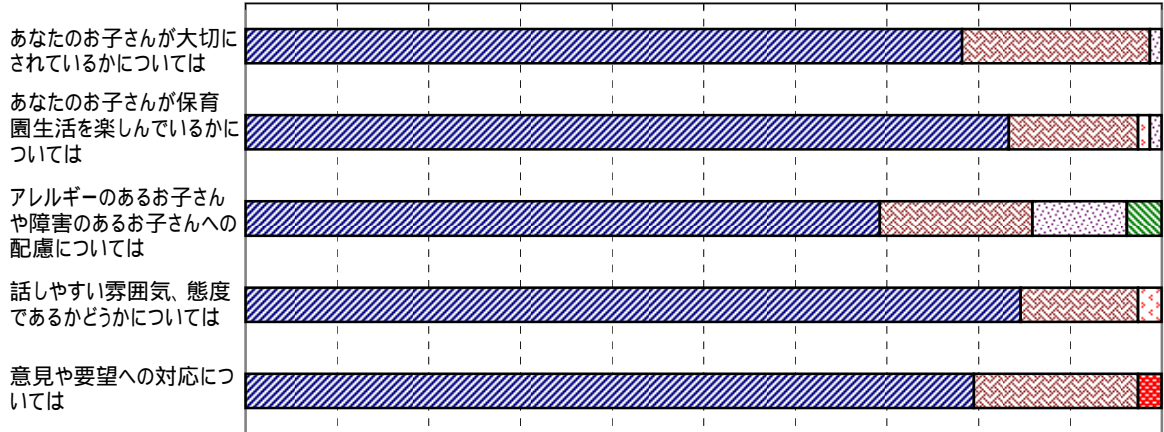
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	78.2	20.5	0.0	0.0	1.3	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	83.3	14.1	1.3	0.0	1.3	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	69.2	16.7	0.0	0.0	10.3	3.8	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	84.6	12.8	2.6	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	79.5	17.9	0.0	2.6	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえ
ば満足 ■どちらかといえ
ば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

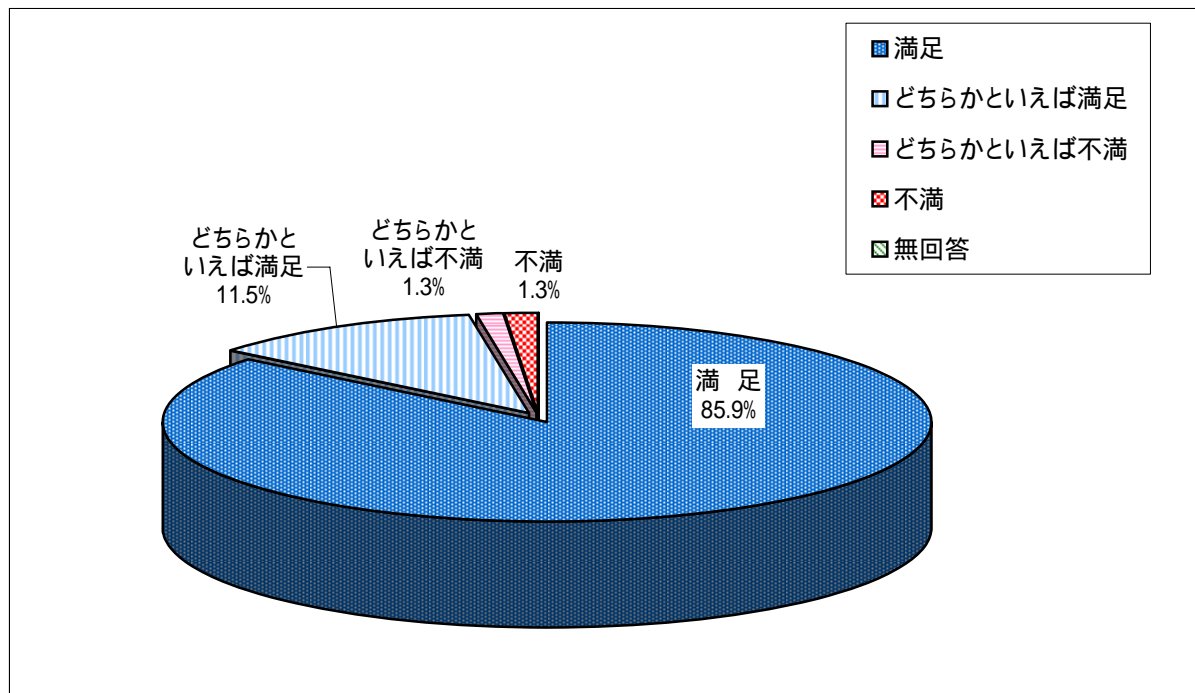
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	85.9	11.5	1.3	1.3	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 7月9日(木) 9:00~20:00、 7月15日(水) 8:20~17:00、 7月19日(日) 15:00~16:00
観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

このクラスは、様々な月齢の15名の子どもたち一人ひとりに担当が決められています。保育士は、子どもとの対一の信頼関係・スキンシップを大事にし、一人ひとりをしっかり受け止めています。ぐずっている子どもも、抱っこされると泣きやみます。

観察の日は、月齢の高い子どもたちは園庭で水遊びです。発泡スチロールの箱でぬるま湯に一人ずつ入れてもらいました。保育室では、思い思いにハイハイや伝い歩きで動いて遊ぶ子ども、周りに支えを置いてもらい、座って保育士といっしょに遊ぶ子どもと様々です。保育士は、ビニール袋を膨らませて飛ばしたり、「上から下から大風来い」とピンクの薄布で風を起こしたりし、子どもたちは楽しそうに笑っていました。

離乳食は4種類あり、一人ひとりのペースを大事にしていて、決して子どもをせかすことはありません。子どもの座る椅子には滑り止めがあり、そっくりかえないように背中にタオルを入れるなど、きめ細かい配慮がしてあります。食べ終わると、ほとんどの子どもは抱っこしてもらって、ミルクを飲んでいました。

1歳児クラス

0歳児クラスと同様に、1歳児クラスでも特定の大人との信頼関係を大切にし、一人ひとりの子どもの担当を決めています。

観察日は、2グループに分かれて散歩に行きました。月齢の高いグループは、公園で、バギーから降りて走ったり、小さいバケツやビニール袋で水道の水を運んだりして楽しみました。水が入った袋を持って走っていた子どもが転ぶと、もう一人の子どもが助けてあげました。公園の遊具では、保育士のリードで「順番こ」の歌を歌いながら順番を待ちました。

暑い日も寒い日も、出来るだけ午前も午後も散歩に出て、体を鍛えています。道中、顔なじみの家が多く、大人と親しく言葉を交わしたり、飼い犬やネコに触らせてもらったりします。また、最近子どもたちは色に興味があり、自転車置き場に並んでいる自転車を見て、口々に「あお」「ピンク」「オレンジ」などと言います。「デンデンムシいるかな」「でんしゃ来たよ」と二語文も飛び出します。

まだまだ発達段階に差がある子どもたちですが、保育士の手際のよいチームワークで落ち着いて過ごしています。

2歳児クラス

観察日は、園庭で、プールと水遊びでした。保育士がホースで水のアーチを作ったり、子どもに水をかけたりし、子どもたちはキャーキャーと楽しそうに水の感覚を楽しみます。この日は水に入らない子どもも2,3人いましたが、保育士が小さいプールにプラスチックの金魚を入れると、金魚すくいに楽しそうに加わっていました。プールが終わるとシャワーをして、体を拭いてもらい保育室に戻り、着替え、そしてお茶タイムです。まだ遊びたくてシャワーの時にぐずる子どももいます。保育士がいろいろ説明しても納得せず、最後に、「プールの水、もう無いよ、一緒に見に行ってみようか」と保育士と一緒に見に行くと、ようやく納得した様子でした。

着替えとトイレは保育士の介助が必要です。保育士の一人は、トイレの中で子どもたちを見守り、もう一人の保育士は、トイレの外で子ども用長椅子のそばに座り、着替えをする子どもたちを見守り、手伝います。

「全部やると言われちゃうと、先生大変なのー。自分でここだけやってみますか？」などと、できるところまで一人でやってみることを、丁寧に子どもたちに勧めていました。

3 歳児クラス

3 歳児クラスは、朝、小さい集会をします。子どもたちに 2 グループに分かれて色水遊びとプール遊びを交代であることを、画用紙に描いた絵で保育士が説明します。色水遊びとプール遊び、そのどちらかの絵に子ども一人ひとりのシールを付けると、子どもたちは納得です。

園庭のプールでは、ワニ歩きやホースの水くぐりなど、顔が水面につくような遊びをして、みんな大満足のような様子でした。プール・色水遊びが終わると、水着を脱いでシャワーをかけてもらい、自分のタオルで体を拭き、保育室に行って服を着ます。終わった子はまた園庭に来て、絞ってもらった水着をビニール袋に入れてもらって、また保育室に戻り、しまいます。ここまでのことを、みんな自分で出来ています。食事は食堂でとります。保育士が配膳して、スプーンと竹箸が配られます。どちらでも自分の好きな方を使って良く、大半の子どもはお箸を選んで、上手にそうめんを食べていました。

活動の流れは自然で、子ども主体です。プールに入る前の体操などをしない子どもが 2,3 人いても、促されたりはしません。また、手洗い場で二人の子どもが、手だけでなく、鏡にも石鹸をつけて、鏡をきれいにして楽しむ、そんなのどかな光景も見られました。「廊下でけんかしている」と子どもが言いに来ると、保育士はすぐに廊下に行って、床に膝をつき、二人からじっくり事情を聞いていました。

4 歳児クラス

観察日の散歩は「路地散歩」でした。公園に行くのではなく、路地の風物を楽しむ、そんな散歩です。まず 2 人ずつ手をつないで 2 列縦隊で出発です。先頭と最後尾に保育士がつきます。自動車の通る道では、道路の渡り方などをしっかりと確認しながら進みます。民家の多い道幅の狭い路地に入ると、子どもたちは、興味を持ったところで、あちこちと立ち止まります。子どもたちが走り出して隊列が広がった時などには、保育士は「ちょうちょ歩きをやりましょう」とか「ほおずきを知ってますか？」というような問いかけをして、みんなを集めます。そして最後に「だるまさん転んだ」ゲームを道路でやって楽しみました。子どもたち一人一人の思いを大事にしながらも、ある時には集団としてまとめようと、保育士はいろいろと工夫をしています。食事の後では、「作戦会議だよー」と子どもたちを集めます。子どもたちは保育士の周りに輪になって座り、今日は何になって食堂から保育室まで帰ろうか、という相談会議になります。最後に保育士が決定し、伝言ゲームで次々に隣の子どもに伝え、この日は「あめんぼう」の動きで部屋に戻りました。

5 歳児クラス

近くの公園の畑でじゃがいも掘りをしました。老人会の方が収穫の指導をしてくれます。おじさん二人が土を掘り返してくれて、たくさん収穫しました。ついでに土の中の虫を見つけて喜び、スコップに集めたりもしました。子どもたちはおじさんにお茶をもっていき、最後に「ありがとうございました」と挨拶して、じゃがいもがたくさん入った袋をかついで持って帰りました。翌日は 5 歳児クラスの合宿で、このじゃがいもで子どもたちがカレーを作ります。「明日のカレーが楽しみ」と子どもたちは言っていました。たくさん取れたので、カレー作りで使う分の余りを給食室でゆでてもらい、他のクラスにも当番が持って行ってあげることにしました。保育士は要所要所で声をかけたり注意をしたりしますが、子どもたちが比較的自主的に行動する部分が多くなっています。自由にお茶をついで飲み、トイレに行き、誰からともなく歌を歌い出すと皆があわせます。当番は誰に促されなくても黙々とゴザを敷き、みんなの布団を敷いていました。

長時間保育・延長保育

乳児クラスは長時間・延長保育の時間帯も、ずっと自分のクラスで過ごすことになっています。更に、短時間パートの同じ先生が、いつも同じクラスに入るようにして、子どもたちが安心・安定して過ごせるように計らっています。

幼児クラスも、長時間保育の間は自分のクラスで過ごしますが、延長保育の始まる 18:30 になると、5 歳児の保育室に集まります。こちらも幼児クラス短時間パートの同じ先生が、毎日担当しています。

また、乳児クラス・幼児クラスとも、必ず常勤職員も延長保育の終わりまで勤務し、保護者への連絡は、主に常勤職員がしています。

夕方の遊びは、少人数だからこそ落ち着いてできる遊びをし、例えば 2 歳児は、ジグソーパズルにじっくり取り組んでいました。お迎えのピークは通常 18:00 過ぎで、だんだんに子どもは少なくなります。

0、1 歳児は自分のクラスで早めに夕食をとります。食堂での夕食は 19:00 からで、2 歳児が 4 人、保育士と一緒に先に食事を始めました。3~5 歳児は二つのテーブルに 5、6 人ずつ座り、5 歳児がお兄さんお姉さん役で当番をして、おかわりもよそってあげていました。

食後は保育士といっしょに大きな時計に数字をはめたり、絵本を見たり、比較的ゆったりと静かな遊びをしています。お迎えが来ると子どもの顔がパッと明るくなります。この日は翌日が 5 歳児クラスの合宿だったので、早めにお迎えに来る保護者もいて、20:00 近くになると、乳児幼児とも子どもは一人ずつになりました。

休日保育

保育時間は朝 9 時から夕方 5 時までですが、前後 1 時間ずつの延長保育も受け入れています。朝の延長保育利用者は比較的少なく、夕方 6 時までの利用者が多くいます。この日は 12 名が予約していましたが、6 名のキャンセルが出たので、0~4 歳までの子どもたちが 6 名来ていました。通常は 10 名以上の子どもたちが来ているとのことです。

職員は、休日保育専任の保育士が 3 名、調理師が 1 名、事務室には園長と、前園長で休日保育の責任を持つスーパーバイザーが出勤していました。子どもたちはいつも休日専任の同じ保育士に迎えられるので、すっかり慣れてしています。

0 歳の子どもは、ようやくよちよち歩きができるかどうか、という状況で、保育士が 1 対 1 で対応していました。午前中は水遊び、午後はお昼寝をしてから、おやつを食べた後、園庭で遊びました。子どもたちは、砂場で遊んだり、足こぎ車、ボールなどを使ったりし、保育士と一緒に遊びながら、みんなの様子を把握しています。車で砂場に入り込もうとする子どもには、「車か砂場かどっちがいい？」と、保育士が声をかけ、どちらかを選ぶように促しました。二人で走り回る子ども、ベンチに腰掛けておしゃべりしている子ども、砂場に座り込んでプリン作りに没頭している子どももいます。園長やスーパーバイザーが、時折様子を見に来ていました。

まとめ

0 歳児の時から子ども一人ひとりのペースや「やる気」が大切にされ、年齢が上がるに従って「自分で考えて行動する」範囲が増えていく姿が見られます。どのクラスでも、子どもの「自分の気持ち」を大切に、保育士は、強制することはなく、子どもへの適切な声かけや接し方、集団のまとめ方を工夫し、丁寧に根気よく関わっています。

事業者コメント

自己評価については5月から乳児部・幼児部職員混合の少人数のグループで話し合ったり、短時間職員・給食職員などで集まって話し合いを行いました。少人数のグループで話したことで、普段、話す機会の少ない職員と保育についてじっくりと話すことができとても意義のある時間でした。また、個人で振り返るのみでなくグループで話し合ったことで、多様な視点で自分たちの保育を見つめることができました。そこから、職員間の話し合いの充実や保護者との協同などの長所も見え、これからはますます充実させていきたいと思いました。また、各マニュアルの横のつながりが薄いなどの足りない部分も課題として確認することができました。今回、自分たちの保育を見直す機会が持てたことで、一層丁寧に保育をしていくことや保護者と手つなぎしながら保育していきたいと感じました。

(主任 小石川裕美)

本園として2回目の第三者評価を受けることになり、前回在籍していた職員・初めて受ける新人職員・他園より移動してきたベテラン職員が混じり合い小グループを作り、1つ1つ確認しながら話し合いを重ねていきました。個人的に捉えていた事柄を話し合う事で再確認出来たり、日々の保育の中で話し合い、実践につなげていっている事を振り返る事が出来たりと職員同士でお互いの保育感を学び合う良い機会となりました。

乳児保育・幼児保育の両方の経験者も増え、様々な視点で共通認識していく難しさも感じながら、子に添って、保護者に添っていく保育の必要性を改めて強く感じました。

保育士・栄養士などのお互いの専門分野のことも学び合い、全体の意識も強く持つことも出来ました。

「全職員での共通認識」をしていく中で、今まで見えなかったことも見えてきて、保護者と共に子どもを中心とした保育につながっていけると感じています。

今回、新たに今後の課題を知ることが出来、1つ1つ話し合いを重ねて改善していきたいと思います。

(主任 鳥海暁子)

かながわ保育園は平成14年4月1日に公設民営としてスタート。18年4月1日より指定管理者となりました。平成23年3月31日に2回目の指定管理者替えが行われる事に伴い、今回2回目の第三者評価を受けました。

法人の「働く女性と子どもたちの為に最善を尽くす」ことを理念とし、保護者と一緒に子どもをまん中にして子育てを進めていくことを保育姿勢として、日々の保育を行ってきました。又、報告、連絡、相談、確認の呼びかけ徹底を図りながら、子ども達や保護者への認識の共有化を大事にしてきました。が、前回の受審から4年経過する中で、職員の退職、異動もあり、今回の受審を契機にして、全職員がかながわの保育を新たに見直そうと取り組みました。

自己評価に取り組む過程で、保育全般やマニュアルに対する認識・理解の共有化、お互いの意見からの学び合い、かながわの課題が見えてきた事等かながわの保育がはっきりし、職員全体の自信につながりました。

家族アンケートの結果は、回収率84.8%、総合満足度は97.4%と高い評価をいただき、大変ありがたく職員の励みになりました。これからも、法人の理念、日々の保育姿勢を大事に、子ども達に、保護者、地域の皆さんに対し、一歩でもより良い保育をめざして全職員で努力して行きたいと思っています。

最後になりましたが、評価機関の皆さんには、休日保育も含め、3日間も実地調査に入ってくださいました。朝から延長保育終了まで実際に保育に入ってくださいましたことで、子ども達も職員もいつもと変わらぬ姿を見ていただくことが出来ました。かながわの課題として、指摘していただいたことは、速やかに対応し反映させて行きたいと思っています。

(園長 矢ヶ部孝子)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
